ピレリ・スーパー耐久シリーズ **2018** 第 6 戦 岡山国際サーキット



東 徹次郎 TOHJIRO AZUMA

今年一番スピードもあり、手応えも良かった予選!! 表彰台も見据えた決勝は開始早々のトラブルに泣く!!

・開催サーキット:岡山国際サーキット (3.703km)

・レース時間:3時間

・チーム: T's concept

・マシン: T's concept 86 (TOYOTA86)

・カーナンバー: #28

・クラス : ST-4

・ドライバー:A 東 徹次郎 B DAISUKE C 植田 正幸



公式予選(11月3日)

◆Weather: 晴れ ◆Course: ドライ

金曜の専有走行でエンジントラブルが発生し、エンジンを乗せ換えて臨んだ 土曜日。

朝のウォームアップではエンジンもマシンバランスも問題無かったので、予選は位置取りに失敗しないように気を付けて、冷静にタイヤのピークのところでタイムを出すということに集中するのみでした。

予選は29号車の後ろでスタートし、計測2周目からアタックに。

フロントタイヤの発熱に対し、リアタイヤがまだピークに来ていない印象でした。

そしてそのまま2周目、3周目と連続でアタックしていきます。

毎コーナー微妙にアジャストしながら、この3周目がベストラップとなりました。

この後、1 周クーリングラップを入れて再度アタックするも、少しタイヤのパフォーマンスダウンも感じ、タイムもベストより 0.2 秒落ちたので、ここで予選を終えました。

A ドライバー予選では今年初めてチームのもう一台の 29 号車の前に行き、5 位で終えます。

また、4位とも僅差だったので、非常に良い手応えを感じることの出来た予選となりました。

Bドライバー予選は位置取りに失敗し、前半タイムが伸び悩んでいた DAISUKE 選手でしたが、後半にしっかり自己ベストタイムを記録してクラス 9 位で終えました。

これにより、合算タイムで今年ベストのクラス6位で予選を終えます。

C ドライバー予選の植田選手も、混んでいる C ドライバー予選の中で 46 秒 台前半を記録し、セクター毎にまとめると更に良いタイムも刻めていたので、決勝のペースにも期待が持てる予選となりました。





予選結果:6位 3'30.133 (A・B 合算タイム)

A: 1'44.056 B:1'46.077

決勝(11月4日)

◆Weather:晴れ ◆Course:ドライ

今回は植田選手がスタート担当、そして DAISUKE 選手、自分がチェッカードライバーという新しい作戦です。

ベテランの植田選手はスタートしてすぐに、5位へポジションアップします。 最高の出だしでピットでも期待感が高まります。

が、しかし3周目に入ったところでした。

ミッションが入らないとの無線が・・・。

それまで全く異常も無かったのですが、僅か3周で緊急ピットイン。

これで事実上、開始2周で勝負権を失いました・・・。

帰ってきてみるとミッショントラブルではなく、クラッチにエアが噛んでしまっていました。

詳しい原因はわかりませんがクラッチのエア抜きをし、DAISUKE選手へドライバー交代をして7周遅れで復帰します。

復帰後は問題無いという無線が入ってきましたが、クラッチにエアが噛んでしまっているときにギアが入り辛かったこともあり、シンクロが痛んでしまっていたようです。

DAISUKE 選手はそれでも労わりながら走行を続け、残り時間1時間40分というところでピットへ。

ここから残りを自分が担当です。

タイヤは無交換で、コースへ復帰します。

やはり3速と4速のシンクロが痛んでいて、特にシフトダウン時はゆっくりと 丁寧なシフト操作を心掛けました。

マシンのバランスや調子を確認しつつ、タイヤとミッションの消耗を労わりながらペースを上げていきます。

今回はマシンの仕上がりに自信があったのですが、思っていた通り重い状態でもマシンは乗りやすくて、クリアラップのときは終始 46 秒前半で走れていました。

プッシュすればトップグループ同様に 45 秒台も見えていましたが、順位的に前も後ろも離れていましたので、まずは労わることを最優先に考えて走行していました。

当初の予定ではチェッカーまで行く予定でしたが、植田選手は2周しか走れていませんでしたし前も後ろも離れていたので、残り25分のタイミングで植田選手へと再びドライバー交代しました。

このとき、タイヤは4本とも交換してコースへ。

最後は4速も抜けてしまいそうな感じで危なかったみたいですが、植田選手もしっかりと労わりながら走行し、最終的に9周遅れのクラス10位で無事に完走しました。

決勝結果:10位(自己ベストタイム:1'46.082)





反省

今回はマシンの持ち込み時のセットも変更して臨んだのですが、それが良い 方向に向かい、木曜の走り出しから手応えを感じていました。

また、木曜入りは自分だけでしたので一人で1時間の走行二回を走ったのですが、ここで軽い状態と重い状態のマシンバランスを確認出来ていて仕上がりが良かったことが非常に大きかったと言えます。

マシンの仕上がりに自信も持てていたからこそ、予選も焦らず良い集中力で 臨めていたと思います。

今回、この木曜でマシンをしっかりと良い方向に作れていたこと、それに合わせて自分の走りも修正出来ていたことが最大のポイントだと感じました。

決勝はまたしても普段起きないようなトラブルが起きてしまい、何故クラッチにエアが噛んだのかまだ原因はわかりませんが、来年に向けてという意味でもチームに原因を解明してもらいます。

予選、決勝と走りの面でもこの一年の成長を出せたと思うので、結果は非常に悔しいですが、今年の経験をまた自分のキャリアに活かしていきたいと思います。



最後に

今回のレースもたくさんのご支援ご声援、有難うございました。

最終戦ということで気合いも入っていましたし、実際今回は仕上がりも良くスピードもあったので本当にマシントラブルが残念でなりません。

しかしながら、最終戦で内容の良いレースが出来たことは今年一年間やってきたことが身になり、しっかりと成長に繋がっていたのだと実感出来たので、自信にもなります。

この岡山ラウンドで自分の参戦する国内のレースは終了致しました。

ただ、12月にタイで 10 時間耐久レースに参戦するので、しっかりと結果に繋 げられるように頑張ります。

来年のことは未定ですが、また皆様に良いご報告が出来るよう、シーズンオフもしっかりと活動していきたいと思います。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

改めて、一年間応援有難うございました。

2018年11月14日 東 徹次郎

